

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401160		
法人名	医療法人 弘池会		
事業所名	医療法人 弘池会 グループホームかづさの杜2号館	ユニット名	
所在地	長崎県南島原市加津佐町戊4427番地		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が医療法人であるため、24時間受診対応可能である。又定期的に健康チェック(訪問看護)を行っている。 医療面での素早い対応が出来る。入居者の思いに添うこと。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>南島原市加津佐町にある“かづさの杜2号館”は自然豊かな環境に恵まれている。天気の良い日は野鳥の鳴き声を聞きながら隣接する老健まで散歩したり、ホーム周辺の遊歩道を車椅子で散歩しており、23年に同じ建物の2階に移転してきた1号館に行かれる方もおられる。ホームの玄関に入ると、ご利用者が丁寧に塗られた鳥や花々、メロン等の絵が飾られ、その数は着実に増えている。ご自分のペースで塗り絵をされており、来訪者に感動を与えて下さっている。畳の部屋にはコタツが置かれ、テレビを見ながら寛げる場所となっており、外の山々や季節の移りも眺める事ができる。洗濯物を干したり・たたまれたり入居者のお仕事になっており、テーブル拭きや味見など入居者のできる事をして頂いている。重度化している方もおられ、会話が続きにくい状況もあるが、入居者同士の間には職員が入って会話を引き出すようにしている。今後はもう少しゆっくりとした時間を作り、日々の暮らしへの要望や入居者のしたいことを引き出していく予定である。管理者は職員個々の頑張りを評価しており、職員同士のチームワークは強くなっている。今後は職員のアイデアや意見を引き出し、ホーム全体のチームワークを高めていく予定にしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境と言えないこともあるがこの理念を共有し出来るだけ家庭的な環境に近づけ安定した生活を過ごして頂いている。	職員のアイデアを活かし、ひな祭りには桃カステラと甘酒、夏には竹を使った“そうめん流し”と、季節に応じた行事を楽しまれている。日常の中でも、自主的に洗濯物干しやモヤシの根切りをされる等、“自分らしい生活”を送れるよう、理念の実践に努めている。地域の方からお芋をもらったり、畑で野菜作りも始めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会自体が小集落である。又施設も山間部にあり環境としては静かであるが関わりは少ない隣接のろうけんや保育園、中学校との交流を行っている。	小学校の春風集会や節分、桜祭や文化祭(福祉祭り)に参加したり、花祭り(お釈迦様甘茶かけ)や福祉体験学習の時には地域の園児や学童、中学生が来て下さり、子ども達との交流を楽しまれている。地域包括の方からの紹介でボランティアの方が踊りやハーモニカ演奏に来て下さり、夏祭りの時は保育園児との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等配布しているが生かしているとは思えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター職員、自治会長様等のご意見は出来る範囲内で活かしている。	入居者、家族、地域住民代表、市役所職員に参加頂き、2ヶ月に1回、同法人のホームと合同で行われている。家族代表を2名にし、参加しやすいように配慮している。地域代表の方から祭りの日程を詳しく教えて頂けるなど、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には取り組んでいない 入退去状況報告、広報誌配布、申請時等に訪れるのみ。	介護保険制度や入退居に関する事は、管理者が広域連合に直接出向き、相談する事もある。不明な事は電話で質問しており、担当者の方は親身に相談に応じて下さり、具体的なアドバイスを頂けている。地域包括の所長からはサークル紹介もして頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や身体拘束廃止委員会に於る勉強会に参加し全職員が周知、理解している。	隣接施設の身体拘束廃止委員会に職員が参加し、全職員に報告している。身体拘束に関する研修も受講し、「ちょっと待って」と言う言葉も身体拘束に当たるのではないかと、ミーティングの場等で自分の言動の振り返りもしている。施設事例検討会でも報告し、多くの意見を伺うなど、身体拘束をしないケアが続けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、委員会に於る勉強会等に参加し職員全員がお互い注意し、どういことが虐待に繋がるのか検討し防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用はしていないがパンフレット等配置している機会があれば勉強会の依頼をしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただけるよう説明に時間を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月毎の面談を行うことによりご家族様の意見等出来る範囲内で反映させている。	毎月の家族面談や面会時に、要望を言って頂ける環境を作っている。「何かないですか」と繰り返し伝えるようにしており、要望は申し送りノートに記載し、話し合いが行われている。家族から「外出をさせて頂き、ありがとうございます」という感謝の言葉を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会、全体ミーティング、カンファレンス時職員の意見等聞く機会を設けている。	年に2回、職員の親睦会が行われ、大いに笑い、大いに語る機会が作られ、信頼関係を深めている。職員のチームワークも良くなっており、毎月の全体ミーティングとカンファレンスで職員のアイデアや気づきが聞かれており、職員の協力体制の中で外出支援等も続けられている。管理者は職員個々の頑張りを施設長に随時報告している。	管理者は職員個々の頑張りや能力を高く評価しているが、まだまだ職員に対して十分な対応ができていないと考えられている。今後も職員のアイデアや意見を引き出し、ホーム全体のチームワークを高めていく予定にしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研究参加、資格修得を勧めている。 又時間外勤務等手当支給等にて向上心、やりがいなどのアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部及び法人内の研修参加促し、研修等の参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等の勉強会に参加し、同業者との交流できる機会を作っている。		

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		入居に当たったの事前調査にて、本人及びご家族から聞き取り情報を頂くことにより、要望希望等が把握でき安心して生活していける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		入居に当たったの事前調査にて、困られていること、心配事伺う。ご家族の話聞きその中での助言、協力が心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		歩行継続希望や下肢筋力低下の方には他のサービス利用(リハビリ等)勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		共に時間を過ごすことにより生活の知恵、料理(昔食べていた物)を会話の中で聞き、共感する事で楽しい時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		面会の促し、外出、外泊の勧め、行事などのご家族の参加(食事会)にて絆を大切にし、本人様を共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		面会のお誘いや地域のお祭り参加、外泊(自宅)	入浴時や団欒時などに馴染みの方を尋ね、施設利用調査票に記載しており、家族と一緒に墓参りや自宅に行かれる方もおられる。家族や知人等の面会時は、ご本人のお部屋で心ゆくまで楽しく過ごして頂いている。農業をされていた方は田畑周辺をドライブしたり、元漁師の方は海にお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		出来る範囲内での役割を分担し協力しながら、コミュニケーションが取れている。その中での職員の関わりで孤立しそうな方を支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後も状態観察に伺い、その後の相談事に応じている。又退去された方のご家族との関わりも大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族、本人様との会話にて把握できるように努めている。	月一度の面談時に家族からお話を伺ったり、日々の生活の中で入居者との会話を大切に、一人ひとりの楽しみや役割などを把握するように努めている。ご本人の思いを引き出す努力をしているが、意思疎通が難しい方は、その方の表情や行動から要望や意向を知るための話し合いをしている。	重度化している方もおられ、会話が続かない状況もある。入居者同士の間にも職員が入って会話を引き出す事もしているが、もう少しゆとりとした時間を作り、日々の暮らしへの要望や、花見やドライブなど、入居者のしたいことを引き出していく予定である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で大まかな事は、把握出来ている。 毎日の生活の中(会話、行動)で把握しケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や行動を把握し出来ることへの支援手助け、心身レベル状態等日々の暮らしの中で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望要望を聞き取りその方に応じた介護計画作成している。	担当職員を中心に計画の原案を作り、計画作成担当者と全職員で検討している。毎月、計画に対する評価が行われ、拭き掃除、食材準備、リハビリ等の役割と共に、家族の役割も盛り込まれている。ご本人の計画という視点でわかりやすい表現にされており、ご本人の力が発揮できるような計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として個々の情報記入している。 全職員が記入し、読むことで情報収集が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護(健康チェックも含む)や協力病院との連携を活かしリハビリを始め医療面での協力出来ている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや梨狩り等、外へ出る事で楽しい豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医、協力病院の主治医との関係は密であり入居者の状態に応じた適切な医療が受けられている。	母体の口之津病院がかかりつけ医という方も多く、希望のかかりつけ医を受療して頂いている。協力病院の受診も含め、職員が通院介助をしており、主治医への情報提供を密に行い、訪問看護師との連携も図られている。受診結果は、緊急を要する場合は電話で報告し、それ以外は面会時や面談時に家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(週1回)や状態変化時対応等依頼健康管理ノートにて個々の情報記入、報告し分からないことは相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	不安や不穏時は病院関係者と連絡密であり連絡、面会、報告等行っている。主治医を始め関係づくりは出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来ることをご家族には説明行っているがご家族の希望にて現在は、協力病院への搬送が多いがそれまでは職員全員が支援している。	終末期ケアの方針があり、入居時に説明している。「最期は病院で」と願う家族も多く、入院ギリギリまで主治医や訪問看護師と連携した支援が行われている。入院時、管理者は「うちの職員に楽しい思い出をありがとう」と心より手を合わせているとの事であった。救命救急講習を受講する等、職員の育成が行われているが、新任職員に対する終末期ケアの研修をしていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が出来るわけではない。しかし救命救急研修や勉強会等には定期的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練に於いて概ね職員が出来ていると思われる。新人職員にも周知徹底、指導行っている。協力機関との協力体制も出来ている。	年2回、入居者、老健職員に参加頂き、避難訓練が行われ、年1回は消防署の方に来て頂き、助言を頂いている。山間部にあるため民家も少なく、運営推進会議に出席されている地域代表の方と共に、併設する老健と病院に協力依頼をしている。災害時に備え、水や食料、非常持ち出し袋なども準備している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない声かけを行っている。	馴れ合いによる言葉かけや、慌てている時の声かけがきつく感じられていないかなどをミーティング時に振り返り、職員同士で注意している。法人での接遇研修も行われ、情報漏洩しない等、個人情報保護の徹底も図られている。優しい職員が多く、ご本人の心理や辛さに配慮した声かけを続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選ぶこと、好みの嗜好品など入居者の自己決定できるよう促す声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の決まり事や業務ペースがあるがその方個々の力量に合わせた時間を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寒暖が理解困難な方には特に身だしなみ注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いのある方、食べれないものがある方には出来る範囲内で好みのものを提供している。 昼食は同じ場所にて職員と共に食べて頂いている。	老健の管理栄養士の献立を参考に、旬の食材を使った料理が作られ、テーブル拭きや味見など入居者のできる事をして頂いている。そうめん流しも好評で、畑で採れたサツマイモの天ぷらは懐かしいと喜んで下さった。酢の物も好物で食材を変えて提供しており、入居者の方も食欲旺盛で、日々の食事が元気の源となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量チェック、10時、15時水分補給、夜間時19時も希望者にお茶、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き促し、見直し、義歯洗浄等行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック行い、トイレ誘導している。	排泄が自立している方もおられ、日中は下着(パット)を着用し、トイレでの排泄を大切にしている。入居者の排泄間隔に合わせ、必要な方にはトイレ誘導が行われている。排泄時はトイレのカーテンを閉め、さりげないトイレ誘導を心がけ、失敗時も、他の方にわからないような配慮が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、繊維物提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る範囲内での対応行っている。 入浴日は決めていない。	夏は週3回、冬は週2回の入浴だが、入浴日以外は清拭が行われている。入浴中は職員との会話を楽しみ、柚子湯や菖蒲湯等も行っている。入浴を好まない方には「温泉よ～」等の声かけを行っているが、無理強いせず、清拭などの対応も取られている。自分で洗える所は洗って頂き、洗身時は足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室での趣味(ぬり絵)、臥床等まちまちで過ごされている。その方の状態に合わせた支援行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書にて把握し、個々の服薬管理行い誤薬には注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活(洗濯物たたみ)、趣味への促し、ドライブ、行事への参加等の支援行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出、定期的にショッピング	天気の良い日は隣接する老健まで散歩したり、ホームの遊歩道を車椅子で散歩している。ホーム周辺をリハビリを兼ねて歩行訓練される方や同じ建物の1号館に行く方もおられる。温泉神社や季節の花見、梨狩り、ドライブなどの外出も行われ、希望に応じて買い物に出かける等、個別の外出支援も行われている。お寿司屋やレストランでの外食も楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より本人様のお小遣い預かり、管理しておりその方の力量に応じ、所持して頂いている。 又ショッピング、外食等に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自ら電話かけられる事はないが依頼あれば職員対応行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、空調調整、季節の花(目につく場所設置している)	ご利用者が丁寧に塗られたぬり絵が玄関や廊下の壁面に飾られ、面会者にも見て頂いている。畳の部屋にはコタツが置かれ、テレビを見ながら寛げる場所となっており、外の山々や季節の移ろいも眺める事ができる。空気の入替えも適宜行われ、空調機も使用し、温度調整が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の生活スタイル重視し無理強いを行わず、思い思いに過ごしていただく。 (和室、食堂等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみ、写真の展示	居室には、ベッド・丸テーブル・椅子・タンスが備え付けられている。入居者や家族と相談しながら、箸や湯飲みなどの愛用のものを持参頂き、ポータブルトイレやシルバーカーなどの使い慣れた物があれば持ち込んで頂いている。家族がコルクボードに写真を貼って下さる方もおられ、ご本人が安心できる居室作りを続けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なし、分かるよう目印		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員のアイデアや気づきは今でも出来てはいるものの 管理者も含めまだまだと思われる。	今まで出来ていることは継続しながらさらなる 向上 をしていきたい。	職員同士(管理者含む)のコミュニケーションを細かく とれるよう配慮する。(ミーティング等にて) 職員のアイデア、気づきをさらに引き出していき たい。	12 ヶ月
2	23	入居者と職員、入居者同士のコミュニケーション作り や 一人ひとりの楽しみや思いを引き出す努力をして いるが まだ十分とは出来ていない。	意思疎通困難な方も含め、その方の表情、行 動 要望、意向を知る為もう少しゆっくりした時間が 摂れるようにしたい。	業務中心や業務に追われずスタッフ同士が助け 合い 利用者中心に過ごせるよう周知徹底し連絡ノート 等 記入、確認し入居者が安心して生活出来るよう配 慮	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月